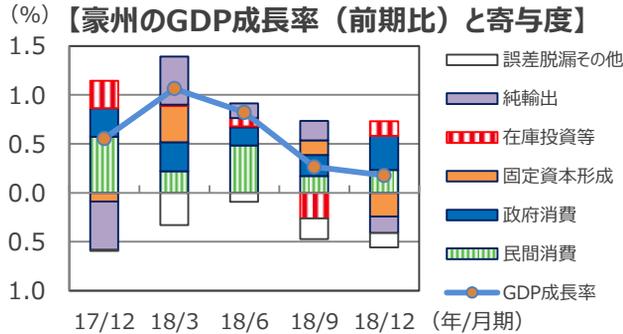


今日のトピック 市場予想を下回った豪州GDP成長率と豪ドル相場（2019年3月）
米中関税引き上げ延期や中国景気回復は豪ドルを下支え

ポイント1 10-12月期の成長率は鈍化
消費の低迷や輸出の減少などが影響

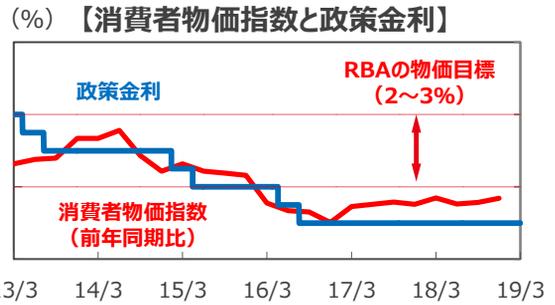
- 3月6日に公表された2018年10-12月期の豪州の実質GDP成長率は前期比+0.2%となり、前期の同+0.3%や市場予想の同+0.3%を下回りました。個人消費が低迷しているほか、輸出の減少により純輸出が4四半期ぶりにマイナスとなりました。



(注) データは2017年10-12月期～2018年10-12月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 金融政策は据え置き
RBAは労働市場の強さを指摘

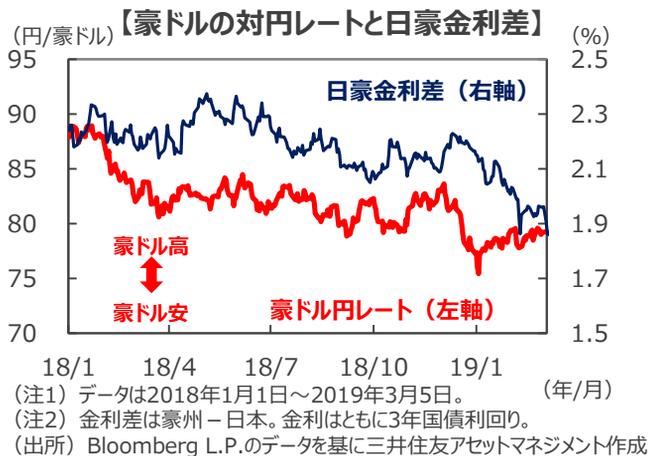
- 豪州準備銀行（RBA）は、3月5日の金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置きました。
- 声明文では、世界経済については緩やかな成長が2019年に入っても続いているとの認識を示しました。豪州経済については、労働市場は依然強いが、インフレは低位で安定しているとの見方を示しました。その他の経済指標は2018年後半にかけて豪州経済が減速したことを示唆していると指摘しました。
- RBAの基本的な見方はこれまでと大きく変わらず、2019年の成長率は年率約3%と予想されています。



(注1) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年10-12月期。消費者物価指数はトリム平均値。
(注2) 政策金利は2013年3月31日～2019年3月5日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは底堅い見込み

- 実質GDP成長率が市場予想を下回ったことを受けて、豪ドルはやや下落しています。世界経済の緩やかな成長の背景にあると考えられる米中貿易摩擦では、関税引き上げが延期されました。また、中国は全国人民代表大会で大型減税など景気対策を発表しており、今後、景気は持ち直すと見込まれます。これらは豪ドル相場を下支えすると見られます。



ここもチェック! 2019年2月27日 アジア・オセアニアのリート市場は堅調（2019年2月）
2019年2月22日 ボックス圏で推移する豪ドル相場（2019年2月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。